

これからのファッションを考える研究会
～ファッション未来研究会～

委員名簿

座長	水野 大二郎	京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab 特任教授／ 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘教授
副座長	軍地 彩弓	株式会社 gumi-gumi 代表
副座長	福田 稔	株式会社ローランド・ベルガー パートナー
	安西 洋之	モバイルクルーズ株式会社 代表取締役
	石川 俊祐	KESIKI Inc. パートナー
	海老澤 美幸	三村小松山縣 法律事務所 弁護士／ファッションエディター
	梶原 加奈子	株式会社 KAJIHARA DESIGN STUDIO CEO
	金山 裕樹	株式会社 ZOZO NEXT 代表取締役
	鎌田 安里紗	一般社団法人 unisteps 共同代表理事
	河野 秀和	シタテル株式会社 代表取締役 CEO
	川崎 和也	Synflux 株式会社 代表取締役兼 CEO
	栗野 宏文	株式会社ユナイテッドアローズ 上級顧問
	小泉 智貴	TOMO KOIZUMI デザイナー
	コシノ ヒロコ	ファッションデザイナー
	齋藤 牧里	afumi.inc 代表取締役
	鈴木 淳哉	chloma デザイナー
	須藤 玲子	テキスタイルデザイナー
	関山 和秀	Spiber 株式会社 取締役兼代表執行役
	高橋 悠介	CFCL 代表兼クリエイティブディレクター
	田原 純香	株式会社メルカリ サステナビリティチーム マネージャー
	鶴岡 裕太	BASE 株式会社 代表取締役 CEO
	中里 唯馬	YUIMA NAKAZATO デザイナー
	中野 香織	株式会社 Kaori Nakano 代表取締役、昭和女子大学客員教授
	ノルベール ルレ	LVMH ジャパン株式会社 代表取締役社長
	福田 泰己	株式会社アダストリア 取締役
	藤嶋 陽子	株式会社 ZOZO NEXT Fashion Tech News 編集長
	辺見 芳弘	株式会社ヨウジャマモト 取締役会長

松下 久美	ファッションビジネス・ジャーナリスト、クミコム代表
松島 倫明	WIRED 日本版 編集長
向 千鶴	WWDJAPAN 編集統括兼サステナビリティ・ディレクター
村木 剛	株式会社ヨウジヤマモト 常務執行役員
森田 修史	クチュールデジタル株式会社 代表取締役 CEO
森永 邦彦	株式会社アンリアレイジ 代表取締役社長/デザイナー
渡邊 真之助	株式会社海外需要開拓支援機構 投資戦略グループ シニアディレクター

<オブザーバー>

黛 桂子 様	株式会社ファーストリテイリング サステナビリティ部 グローバル環境マネジメントチーム リーダー
シェルバ 英子 様	株式会社ファーストリテイリング コーポレート広報部 ソーシャルコミュニケーションチーム リーダー
経済産業省	経済産業政策局 知的財産政策室 産業技術環境局 資源循環経済課 製造産業局 生活製品課 商務情報政策局 コンテンツ産業課
環境省	「ファッションと環境」タスクフォース

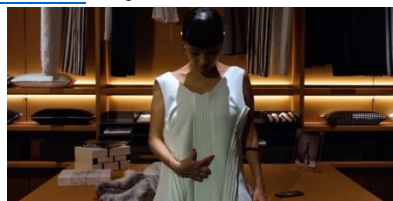
※委員名簿は敬称略、五十音順。令和3年12月16日時点。

水野 大二郎（みずの だいじろう）

ファッションデザインを中心に、デザイン学における実験的・実践的設計方法論の教育と研究に従事しています。近年ではサーキュラーデザイン、トランジションデザイン、ポリシーデザインなどの包括的なデザイン領域に着目しています。2021 年現在、京都工芸繊維大学特任教授と慶應義塾大学大学院特別招聘教授を務めています。



- 蘆田裕史との共同責任編集『vanitas』（アダチプレス）、『Fashion Design for Living』（Routledge）『A Practical Guide to Sustainable Fashion』（Bloomsbury Publishing）、『ファッションは更新できるのか？会議』（フィルムアート社）などの書籍に加え、国際学会を中心に論文発表を行ってきました（IASDR, ACM SIGCHI, ServeDes, PDC ほか）。
- 企業との共同研究を多数手がけてきました（2017 年、Ars Electronica STARTS Prize nomination: Google ATAP との共同研究成果 <https://starts-prize.aec.at/en/speculative-fashionable-wearable/>）。



Speculative, Fashionable, Wearable, 2017

Royal College of Art にて修士／博士号を修了（ファッションデザイン）。帰国後は京都大学デザインスクール特任講師、慶應義塾大学環境情報学部准教授などを歴任。2022 年 1 月、『サーキュラーデザイン』（共著：津田和俊、学芸出版社）が刊行予定。

軍地 彩弓（ぐんじ さゆみ）

ファッション業界にメディアの立場から長年携わり、国内外、ラグジュアリーからコモディティまで広くファッション業界のトレンド分析などを行っています。特に小売業界の変化、消費者の変化などを中心に取材、執筆。最近はアバターファッションのプロデュース等も手掛けております。



株式会社 gumi-gumi 代表

TOKYO Fashion Technology Lab 理事

メルカリ「マーケットプレイスのあり方に関する有識者会議」
委員（2020-）

経産省 アパレルサプライチェーン委員（2016）/経産省

ファッション政策懇談会委員（2017）

六本木ヒルズアカデミークラブ「カタリストトーク」カタリスト
/ Tokyo Girls Collection ファッション監修

- 大学時代よりライターのカリヤをスタート。講談社「ViVi」にてファッションライターとして長年活動。雑誌「GLAMOROUS」創刊に携わる。
- 2008 年コンデナスト・ジャパン入社。「GQ JAPAN」編集長代理、「VOGUE GIRL」創刊時のファッションディレクターを歴任。
- 2014 年、自身の会社 gumi-gumi を立ち上げる。
- ファッション編集者として活動する傍ら、企業コンサルタント、ファッションビジネス関連の記事執筆、テレビコメンテーター、ドラマのファッション・脚本監修などを務める。
- 連載/執筆：ビジネスインサイダー「Think Next」、メトロポリターナ「# TOKYO CODE」ほか。著書「100 人が描く未来」（2018）、「苦境アパレル生き残りの条件」（2021）ほか。

福田 稔（ふくだ みのる）

ローランド・ベルガー東京オフィスの消費財・流通プラクティスのリーダー。

アパレル、化粧品、ラグジュアリー、小売り等ライフスタイル領域を中心に、グローバル戦略、ビジョン策定、ブランド戦略、D2C、DX 推進、サステナビリティ戦略等の立案・実行に豊富な経験を持つ。



- 経済産業省「服づくり 4.0」をプロデュースし、ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS 2017「クリエイティブイノベーション部門」ゴールド賞受賞。同省主催の「若手デザイナー支援コンソーシアム」も支援するなど、政策面からのアパレル業界に対する支援も実施。
- PE ファンドの支援を通じた消費財企業に対する投資・再生支援実績は業界トップクラス。シタテルや IMCF の社外取締役を務めるなど、業界の革新を促すスタートアップに対する支援も行う。
- 近著に「2030 年アパレルの未来 日本企業が半分になる日」（東洋経済新報社）、共著「2030 年ビジネスの未来地図 これからを生き抜くための戦い方」（PHP 研究所）ほか。
- 生活者、B2C、サステナビリティ関連の寄稿・講演多数。
- 企業・政府・PE ファンド・スタートアップ・メディア活動の 5 つの視点から、業界全体の成長・革新を促すための活動に日々従事している。

慶應義塾大学商学部卒、欧州 IESE ビジネススクール経営学修士（MBA）、米国ノースウェスタン大学ケロッグビジネススクール MBA exchange program 修了。電通国際情報サービスを経て、2007 年ローランド・ベルガーに参画。

安西 洋之（あんざい ひろゆき）

東京とミラノを拠点とした
ビジネス＋文化のデザイナー
モバイルクルーズ株式会社代表取締役
De-Tales ltd. ディレクター
立命館大学 DML 客員研究員



- これまで欧州とアジアのビジネスと文化の案件に多数参画してきており、特にデザイン分野に関わりが深い。
- 2000 年代からカーナビなどの電子機器インターフェースの欧州市場向けユーザビリティやローカリゼーションに関わり、デザインを通じた異文化理解の仕方「ローカリゼーションマップ」の啓蒙活動をはじめた。
- 2017 年、ベルガンティ『突破するデザイン』の監修に関与して以降、意味のイノベーションのエヴァンジェリストとして活動するなかで、ソーシャル・イノベーションを促すデザイン文化についてもリサーチ中である。
- 現在の主な関心は、ラグジュアリーの新しい意味の探索。ラグジュアリーを、文化創造を伴うソーシャル・イノベーションと位置づけているのがポイントである。
- フランスを中心とした従来の排他的ラグジュアリーではなく、世界各国で生まれつつあるインクルーシブなラグジュアリー・スタートアップに注目しており、新しいラグジュアリーの意見形成にコミットすべくラグジュアリー・ディスコースを構築中。
- 同時にこの分野で頻出している「文化の盗用」もフォロー。これらをまとめて来春、本テーマの書籍を出版予定。
- 著書に、『メイド・イン・イタリーはなぜ強いのか』（晶文社）ほか多数。

石川 俊祐 (いしかわ しゅんすけ)

KESIKI Inc. Partner, Design
Innovation / 多摩美術大学 TCL
特任准教授・プログラムディレクター



- Panasonic Design Company、PDD Innovations UK を経て、IDEO Tokyo のデザインディレクターとして立ち上げに従事。
- その後、BCG Digital Ventures Head of Design を経て、現職。
- 数多くのイノベーションプロジェクトに携わる。
- D&AD やグッドデザイン賞、全国各地のデザインセレクションなどの審査委員を歴任。
- 近著として 『HELLO, DESIGN 日本人とデザイン』 (幻冬舎) など。「TCL-多摩美術大学クリエイティブリーダーシッププログラム」プログラムディレクター / 特任准教授。

ロンドン芸術大学 Central St. Martins 卒。

海老澤 美幸（えびさわ みゆき）

弁護士／ファッションエディター。

ファッション業界に精通する弁護士として、アパレル・ファッション産業に関わる法律問題全般を取り扱うとともに、ビューティーやライフスタイルの領域まで幅広く法的サービスを提供している。特に、ファッションデザイン模倣への対応をはじめとする知的財産関連、インフルエンサービジネス、D2C、サステナビリティ、文化の盗用やジェンダー平等など、昨今の重要トピックに関して豊富な知見を有する。業界におけるリーガルリテラシーの向上にも積極的に取り組んでいる。ファッション関係者の法律相談窓口「fashionlaw.tokyo」主宰。



- 三村小松山縣 法律事務所において、ファッションローに特化した専門チーム「ファッションロー・ユニット」を立ち上げ、チーム一丸となって業界の問題に日々取り組んでいる。
- ファッションローに関する寄稿・メディア掲載・講演多数。
- 若者やファッション関係者への教育・啓もう活動にも力を入れており、インフルエンサーや学生への講義、関係者へのセミナー・ワークショップ等を開催している。一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構と連携し、東京コレクションにあわせて YouTube 動画「ファッション法律相談所」を配信。文化服装学院非常勤講師もつとめる。

慶応義塾大学法学部法律学科卒業後、自治省（現 総務省）入省。宝島社において女性ファッション誌の編集者、イギリス・ロンドンにてスタイリストアシスタントを経て、フリーランスのファッションエディター／スタイリストとして『ELLE japon』『ハーパース・バザー』『GINZA』等のファッション誌や広告で活動。2017 年弁護士登録。2019 年三村小松山縣 法律事務所参画。

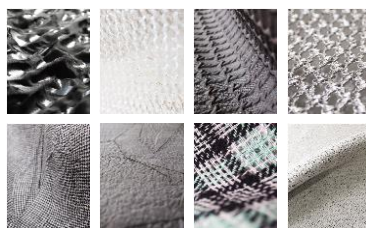
梶原 加奈子（かじはら かなこ）

テキスタイルデザイナー

JAPAN TEXTILE CONTEST 審査員長



- （株）イッセイミヤケテキスタイル企画を経て渡英。2003 年よりロンドンの王立芸術大学院（RCA）ファッション&テキスタイルデザイン修士課程終了。欧州のデザインコンペTEXPRINT2005 で新境地開拓部門のグランプリ受賞後、フリーランスとして欧州企業にデザインを提供する。
- 2006 年に帰国し、（株）KAJIHARA DESIGN STUDIO を設立。テキスタイルデザイナーとして産地工場の素材開発とグローバル発信に携わり、欧米のハイメゾンに向けて継続的に日本のテキスタイルを販売する。
- クリエイティブディレクターとしてもファッション、スポーツ、インテリア、車など様々な分野のディレクションやブランド作りに関わる。アフターコロナの市場変化に伴い加速化する工場発信ファクトリーブランドの D to C 展開を支援するブランディングやデジタルプラットフォームを運営する「CRAHUG」プロジェクトの監修を担う。
- 受賞：PREMIERE VISION PV Awards The Grand Jury Prize（2013 年）、織研賞（2020 年）。



北海道札幌市生まれ。多摩美術大学デザイン学部染織科卒業。

金山 裕樹（かなやま ゆうき）

株式会社 ZOZO NEXT 代表取締役

- ファッションアプリ「IQON」（アイコン）を運営する株式会社 VASILY を創業後、2017 年 10 月に「Zozotown」を運営する株式会社 ZOZO に売却。
- 株式会社 ZOZO テクノロジーズ代表取締役 CINO を経て、2021 年 10 月より現職。
- R&D と新規事業の創造を行なっている。



鎌田 安里紗（かまだ ありさ）

「多様性のある健康的なファッション産業に」をビジョンに掲げる一般社団法人 unisteps の共同代表を務め、衣服の生産から廃棄の過程で、自然環境や社会への影響に目を向けることを促す企画を幅広く展開。種から綿を育てて服をつくる「服のたね」、衣食住やものづくりについて探究するオンラインコミュニティ「Little Life Lab」等。



- ファッション産業の透明性向上を目指すグローバルキャンペーン FASHION REVOLUTION の日本事務局を務める（2017 年～現在）。2020 年 7 月 FASHION REVOLUTION JAPAN として環境省に「サステナブルファッションの促進に向けた提案」を提出。
- 環境省ファッションと環境タスクフォース主催勉強会の事務局を務める（2020 年 10 月～2021 年 3 月）。その後発足したジャパンサステナブルファッションアライアンスの事務局を務める。
- ソーシャルレスポンスビリティ（社会的責任）とクリエイティビティ（創造性）への高い意識を併せ持つデザイナーを育み・称えるエデュケーションプログラム兼ファッションアワード FASHION FRONTIER PROGRAM を主催。
- 生活者・企業・政府の橋渡しをしながら、ファッション産業全体の健全性と求心力、そして魅力の向上を目指して多様な活動に従事している。

慶應義塾大学総合政策学部卒

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程在籍

河野 秀和（かわの ひでかず）

シタテル株式会社 代表取締役 CEO

熊本大学非常勤講師

ISS(国際宇宙ステーション)

「Earthian Wear」ゼネラルディレクター



- メーカー、金融機関を経て独立。
- 経営支援事業や衣服のカスタマイズ事業を行い、VC 主催のアクセラレーションプログラムにより、サンフランシスコ/シリコンバレーで IT ビジネス、スタートアップ企業の経営戦略、グローバル戦略、ファイナンス戦略等見識を深める。
- 帰国後 2014 年シタテル株式会社を創業。熊本と東京を拠点に活動。
- 総務省「ICT 地域活性化大賞 2016」大賞 ・ 総務大臣賞受賞
- 経済産業省「服づくり 4.0 プロジェクト」協力企業 ・ 「新連携」認定企業
- 内閣府「地域しごと創生会議」IoT を活用した新たな企業間連携の促進代表企業

ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS 2017 「クリエイティブイノベーション部門」 ゴールド賞受賞

川崎 和也 (かわさき かずや)

Synflux 株式会社 代表取締役兼 CEO
 スペキュラティヴ・ファッションデザイナー／デザインリサーチャー



- バイオマテリアルの可能性を模索する
 「Biological Tailor-Made」
 (2017-)、機械学習アルゴリズムを応用したデザインシステム
 「Algorithmic Couture」(2018-)、人工と自然の新たなハイブリッドを前提とした異形のデジタル表現を追求する
 「AUBIK」(2020, HATRA との共作)「XENON」(2020) など、身体や衣服、素材にまつわる思索的な創造性の探求を実践。
- 2019 年 3 月 Synflux 株式会社設立後は、情報技術による最適化社会の実現とデジタル美学の構築を目指し、自社サービスの開発や企業・大学との共同研究などの事業を推進する。
- 主な受賞に、H&M 財団グローバルチェンジアワード特別賞、文化庁メディア芸術祭アート部門審査委員会推薦作品選出、Dezeen Design Award Longlist、STARTS PRIZE、Wired Creative Hack Award、YouFab Global Creative Award など。オランダ・ダッチデザインウィーク／南アフリカ・デザインインダバ招待作家。



AUBIK, 廃棄減少 AI
 アルゴリズム応用, 2020



XENON, ジャガード柄生成 AI
 応用, 2020



Robyn Lynch x Synflux NFT コレクション, 2021

1991 年生まれ。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科エクステナショナルデザインプログラム修士課程修了（デザイン）。

現在同後期博士課程。

栗野 宏文（くりの ひろふみ）

株式会社ユナイテッドアローズ
上級顧問

- 1953 年、生まれ
- 和光大学卒業後ファッション小売業界へ。
スズヤ、ビームスを経て 1989 年、
常務取締役としてユナイテッドアローズ設立に参加。
販売促進部長、バイヤー、ディレクター等を経て C C O（チーフクリエイティブオフィサー）
- 2008 年、役員を退任後は同社上級顧問
- 1996 年から 2013 年にかけてベルギー、王立アントワープ学院ファッション学部卒業審査員を引き受ける（計 9 回）
- 2014 年、第 1 回目より LVMH プライズ 審査員
- 2020 年 ‘モード後の世界’ を上梓
- 2021 年、HUMANOS 設立（ユナイテッドアローズ顧問と並行して）



小泉 智貴（こいずみ ともたか）

TOMO KOIZUMI デザイナー

- 2011 年、大学在学中に自身のブランドを立ち上げる。
- 2019 年初となるファッションショーをニューヨークで開催。
- 2019 年毎日ファッション大賞選考委員特別賞受賞、BoF500 選出。
- 2020 年 LVMH プライズ優勝者の 1 人に選ばれる。
- 2021 年東京オリンピック開会式にて国歌斉唱の衣装を担当。
- 2021 年毎日ファッション大賞を受賞。



コシノ ヒロコ (こしの ひろこ)

ファッションデザイナー



- 文化服装学院在学中に日本デザイナー協会デザインコンクール1位を受賞。
- 1964年大阪心斎橋にオートクチュール・アトリエを開設し、1977年以降毎年二度東京コレクションに参加している。
- 1978年には日本人として初めてローマのアルタ・モーダに参加し、以後パリや上海など世界各地でコレクションを発表。
- 1995年米国ワシントンDCで開催された国際アパレル連盟総会では、アジア代表デザイナーとして講演した。
- その一方で、異分野のアーティストとのコラボレーションにより、ファッションの枠にとらわれない数々のイベントを世界各地にて開催している。
- HIROKO KOSHINOなど複数の婦人服ブランドを展開するほか、バッグや帽子などの小物、ライフスタイル関連グッズ、紳士服など、数多くのファッションアイテムのデザインを手がけている。
- 近年はアーティストとしても精力的に活動し、国内外での個展も多い。2013年には、自身の作品を発表する場としてKHギャラリー芦屋を開設。
- 2017年、デザイナー60周年記念本『HIROKO KOSHINO | it is as it is あるがまま なすがまま』を出版。2021年には兵庫県立美術館にて「コシノヒロコ展」が大々的に開催された。
- 1997年第15回毎日ファッション大賞、2001年大阪芸術賞受賞。

大阪・岸和田生まれ。

齋藤 牧里（さいとう まり）

afumi inc. の代表取締役、CEO。LVMH ジャパン社の CSR プロジェクト代表も務める。

2016 年 afumi 創業まで約 18 年間、ルイ・ヴィトン ジャパン社で PR コミュニケーションの責任者を務める。協会デザインコンクール 1 位を受賞。



- ファッションを導入させ、新たなフェーズを迎えたルイ・ヴィトンのブランディングの過程をダイレクトに体験。
- 村上隆、草間彌生等日本を代表するアーティストとのコラボにおいては日本側の責任者としてプロジェクトを支援。
- サステナブル・プロジェクトとして「ルイ・ヴィトンの森」を長野県に more tree と作り森の再生に取り組む。東日本大震災時には支援プロジェクトとして宮城県の牡蠣養殖場の再生と「森は海の恋人」森林再生プログラムを支援、さらに福島県相馬市に「LVMH 子供アートメゾン」という子供達の心のケア施設を坂茂氏に依頼し建設。これらの経験を通して現在も LVMH ジャパンの CSR プロジェクトをサポートしている。

ルイ・ヴィトンの前はグッチ ジャパンで PR コミュニケーションの責任者を 7 年半ほど務め、トム・フォードによる GUCCI ブランドの再構築、ブランディングに従事。

現在は日本を代表するオートクチュールデザイナーであり、YUIMA NAKAZATO の PR コミュニケーションのコンサルティングとサポートから藤原ひろし氏のコラボレーション関連のコンサルティング、LVMH のアートスペース「Fondation Louis Vuitton」及びホテル「Cheval Blanc」の日本の広報窓口、IUU フォーラムの PR など活躍の場を広げている。

国際基督教大学 社会科学科卒。ルイ・ヴィトン ジャパン、アルファ・キュービック、ジャーディン・マセソン、グッチ・ジャパンなどで経験を積み、現在に至る。

鈴木 淳哉 (すずき じゅんや)

ファッションレーベル chloma(クロマ)
代表/デザイナー



- 2011 年、パタンナー佐久間麗子と共に chloma を設立。
「情報の世界とリアルの世界を境なく歩く現代人のための環境と衣服を提案する」をコンセプトに、定期的にコレクションを発表している。
- 2016 年より、VR/AR を活用したファッションの表現に取り組み始める。現在ではメタバース用アバターのための衣服を販売しており、リアルとバーチャルを問わずに chloma のファッションを楽しめる環境を構築している。
- 2017 年新人デザイナーファッション大賞プロ部門受賞。
- 2020 年 米国の音楽プロデューサー Porter Robinson の別名義プロジェクト「Virtual Self」とのコラボコレクションを発表するなど、日本国外からも支持を集めている。
- VR/AR 関連の活動
 - ・ 2017 年 STYLY との協業による chloma×STYLY HMD collection [REAL⇄MR⇄VR]を発表。Microsoft Hololens を活用し、MR を用いた購買体験を提案。
 - ・ 2019 年 pixiv 株式会社との協業により、3D アバターのためのファッション VRoid WEAR を発表。
 - ・ 2020 年 ソーシャル VR「VRChat」内に chloma Virtual Store [Living in a bubble] を開設。バーチャル空間で chloma のコレクションを試着体験をすることが可能に。
 - ・ 2021 年 バーチャルストアの第二弾 chloma Virtual Store in GHOSTCLUB を開設。

須藤 玲子 (すどう れいこ)

テキスタイルデザイナー

株式会社 布代表

東京造形大学名誉教授

Textile Designer

Design Director, Nuno Co., Ltd.

Professor Emeritus, Tokyo Zokei
University.



Photo by Masayuki Hayashi

- 2008 年より良品計画、山形県鶴岡織物工業協同組合、株式会社アズ他のテキスタイルデザインアドバイスを手がける。

Since 2008, textile design advisor to Ryohin Keikaku, Tsuruoka Textile Industry Cooperative, Yamagata Prefecture, As corporation and others.

- 日本の伝統的な染織技術から現代の先端技術を駆使し、新しいテキスタイルづくりをおこなう。作品はニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館、ボストン美術館、ロサンゼルス州立美術館、ビクトリア&アルバート博物館、東京国立近代美術館他に永久保存されている。

Wielding a vast array of techniques and technologies ranging from traditional Japanese dyeing and weaving to contemporary high-tech textile processes, Sudo has created works included in the permanent collections of MoMA; the Metropolitan Museum of Art; the Museum of Fine Arts, Boston; the Los Angeles County Museum of Art; the Victoria & Albert Museum; The National Museum of Modern Art, Tokyo; and many other institutions worldwide.

茨城県石岡市生まれ

Born in Ishioka, Ibaraki Prefecture.

関山 和秀（せきやま かずひで）

Spiber(スパイバー)株式会社取締役兼
代表執行役



- 慶應義塾大学政策・メディア研究科後期博士課程在学中、2007 年 9 月にスパイバー株式会社（現 Spiber 株式会社）を共同設立。
- 持続可能な社会の実現に向け、原料を枯渇資源に頼らない構造タンパク質「Brewed Protein™素材」の産業化を目指す。

1983 年生まれ、東京都出身。

高橋 悠介（たかはし ゆうすけ）

CFCL 代表兼
クリエイティブディレクター



©Yosuke Suzuki

- 2010 年株式会社三宅デザイン事務所入社。
- 2013 年に ISSEY MIYAKE MEN のデザイナーに就任し、6 年にわたりチームを率いる。
- 2020 年同社を退社後、CFCL を設立。
- 2021 年第 39 回毎日ファッション大賞 新人賞・資生堂奨励賞及び FASHION PRIZE OF TOKYO 2022 を受賞。

1985 年生まれ、東京都出身。
文化ファッション大学院大学修了。

田原 純香（たばら すみか）

慶應義塾大学商学部卒業後、Accenture、A. T. kerney にて経営戦略コンサルタントとして勤めたのち、Interbrand にてブランド戦略コンサルタントとして従事。2018 年 10 月にメルカリに入社。社長室にてリスク管理プロジェクトや ESG 立ち上げプロジェクトなどを実行した後、Branding team を立ち上げ Manager として従事しながら ESG 領域の Lead としても従事。その後、2021 年 10 月にサステナビリティチームを立ち上げ、現在は同チームのマネージャーを務める。



鶴岡 裕太（つるおか ゆうた）

BASE 株式会社 代表取締役 CEO



- 大学在学中に株式会社 CAMPFIRE のエンジニアインターンを経験後、複数のインターネットサービスのバックエンドのプログラミングやディレクションを経験し、2012 年 12 月に 22 歳で BASE 株式会社を設立。
- 「Payment to the People, Power to the People.」をミッションに、160 万ショップ（2021 年 9 月現在）が利用する国内最大級の E コマースプラットフォーム「BASE（ベース）」を運営。
- 個人やスモールチームがかんたんに導入できる決済システムや、リスクの無い資金調達の仕組みを作り、テクノロジーによって価値と価値の交換がスムーズに行われる環境を開発・提供している。
- 2014 年には、米国 Apple 社が注目するデベロッパーに日本から BASE 社が選出された。
- また、2016 年の Forbes ASIA が選ぶ「アジアを代表する 30 歳未満」の小売り&E コマース部門と、2018 年の Forbes JAPAN の日本の起業家 BEST3 位に鶴岡自身が選出されている。
- 2019 年 10 月に東証マザーズに上場。

1989 年大分県大分市生まれ。

中里 唯馬（なかざと ゆいま）

YUIMA NAKAZATO デザイナー

- 2015 年に「株式会社 YUIMA NAKAZATO」を設立。
- 2016 年 7 月にはパリ・オートクチュール・ファッションウィーク公式ゲストデザイナーの 1 人に選ばれ、コレクションを発表。
- その後も継続的にパリでコレクションを発表し、テクノロジーとクラフトマンシップを融合させたものづくりを提案している。



1985 年生まれ。

2008 年ベルギー・アントワープ王立芸術アカデミー卒業。

中野 香織（なかの かおり）

イギリス文化研究を起点とするメンズ、レディスのファッション文化史およびラグジュアリー領域に関する記事を書くほか、昭和女子大学客員教授、企業（ホテル業界、繊維業界）のアドバイザーを務めています。



- 連載中：日本経済新聞、読売新聞、北日本新聞、Forbes Japan、婦人画報、LEON、JBpress autograph、FRaU、集英社 kotoba、NewsPicks Propicker
- 過去半年以内の不定期執筆：Journal of Japanese Studies, GQ Japan, Precious, Elle Japon、Esquire、ユリイカほか。
- 著書：「イノベーターで読むアパレル全史」（日本実業出版社）、「ロイヤルスタイル 英国王室ファッション史」（吉川弘文館）、「紳士の名品 50」（小学館）、「モードとエロスと資本」（集英社）、「ダンディズムの系譜 男が憧れた男たち」（新潮選書）ほか。
- 19 歳よりメディアで書いています。過去の記事の一部は www.kaori-nakano.com にアーカイブとして公開しています。
- スイスに本社をおく Akris より Woman with Purpose に選んでいただきました(2021 年)。
- 現在の主な関心と活動：新しいラグジュアリーという考え方の発信、記事化による若い起業家のエンパワメント、ライフスタイルの集大成およびメディアとしてのホテル文化の創造・発信、ビスポークスーツ文化継承のための支援。

東京大学文学部および教養学部卒業。東京大学大学院博士課程単位取得満期退学。英ケンブリッジ大学客員研究員、明治大学特任教授などを務めました。

ノルベール ルレ (Norbert Leuret)

LVMH（モエヘネシー・ルイヴィトン、世界のラグジュアリーブランド、ワイン&スピリッツ、ファッション、香水・化粧品、宝飾時計などの 75 ブランドを統括するホールディングカンパニー）日本支社代表取締役社長



- フランスに生まれ、1983 年リヨンのビジネススクールを卒業後、在日フランス大使館大阪領事部でキャリアをスタート。
- その後、ロイヤル・ダッチ・シェルグループ、日本キャンピングガス(株)で、取締役を勤めた後、1997 年 LVMH グループの一つであるケンゾージャパン（株）に入社。
- のちに代表取締役に就任。2003 年に（株）アシェット婦人画報社 代表取締役に就任し、出版業界での経験を積み、その後ファッション業界へ戻ることを決意、
- 2006 年(株)ザラジャパンで代表取締役兼 CEO に就任。日本におけるザラの店舗開発に注力し、存在感を高めた。
- 2016 年ザラでの手腕とケンゾーでの経験をもとに、LVMH に戻り現在に至る。

福田 泰己（ふくだ たいき）

株式会社アダストリア 取締役

- 2005 年、株式会社ポイント（現当社）に入社。
- 店長、エリアマネジャーを経て、経営企画部門において、複数の M&A 案件に参画。
- 2014 年より Adastria Asia 社の代表取締役 CEO として海外事業を統括。
- 2016 年に帰任し、マーケティング・EC 事業の責任者を経て、2017 年 5 月より現職。



1978 年生まれ。

2004 年、The University of Findlay 経営学修士課修了。

藤嶋 陽子（ふじしま ようこ）

株式会社 ZOZO NEXT Fashion Tech News
編集長
理化学研究所 革新知能統合センター 研究
パートタイマー
ファッション研究者



- フランス文学を学んだ後、2011 年よりロンドン芸術大学セントラルセントマーチンズでファッションデザインを学ぶ。
- 帰国後、研究としてファッションと向き合う。
- 2019 年から株式会社 ZOZO NEXT（旧 株式会社 ZOZO テクノロジーズ）に所属。ZOZO 研究所 リサーチサイエンティストを務めた後、ファッションとテクノロジーの架橋領域を専門に扱うメディア「Fashion Tech News」編集長に。国内外のファッションテックの潮流に加え、その文化的土壌となる多様な議論を発信。
- 自身の主な研究テーマは日本のファッション産業史、ファッションにおける空間メディア。現在はファッション領域での人工知能活用をめぐる議論、ファッションにおけるテクノロジー論も主題とする。また、身体論に関する執筆活動も行っている。
- 現在、理化学研究所 革新知能統合研究センターの研究員パートタイマー兼務。昭和女子大学、文化服装学院にて非常勤講師も務める。
- 共著に『ポスト情報メディア論』（ナカニシヤ出版）、『ソーシャルメディア・スタディーズ』（北樹出版）など。

2016 年東京大学学際情報学府修士課程修了。
現在、同博士課程在籍。

辺見 芳弘（へんみ よしひろ）

インテグラル取締役パートナー
株式会社ヨウジヤマモト 取締役会長



- 商社での日米 10 年間の勤務経験を礎に、経営戦略コンサルティング会社での日米での幅広い業界・プロジェクト経験と、2つの企業の経営トップとしての実際の企業変革の実践という、多岐に渡る経営経験を併せ持つ。
- アディダスジャパンでは、日本人トップとして日本法人の設立に参画し、会社をゼロから構築、新しいマーケティング・営業戦略、商品調達・物流、組織・企業文化、人事制度、新規事業等の企画・実行に携わった。1998 年の設立以降、同社は日本でのブランドイメージを飛躍的に向上、2006 年現在、年商は 1000 億円を超えている。
- 東ハトでは代表取締役社長として、企業イメージ・ブランドイメージの刷新、ヒット商品の開発、経営システムの構築、企業文化の改革、マネジメント人材育成を推進し、民事再生法適用の同社の再生を 3 年間で完了し、企業価値の大幅向上に貢献した。
- インテグラル創業後は、数多くの企業への投資・経営改革に取り組んでおり、2009 年にはヨウジヤマモト取締役会長、2016 年にはイトキン取締役会長に就任している。

慶應義塾大学商学部卒 ハーバード大学 MBA（経営学修士）

1980 年/ 三井物産入社

1990 年/ ボストンコンサルティンググループ入社

1998 年/ 同社パートナー就任

1998 年/ アディダスジャパン入社、2001 年から副社長

2004 年/ 東ハト代表取締役社長就任

2007 年 9 月/ インテグラル創業、取締役パートナー就任（現任）

松下 久美（まつした くみ）

ファッションビジネス・ジャーナリスト、
クミコム代表

- 百貨店内のゴルフウェア売場で販売やバイイングを経験。
- 「日本繊維新聞」の小売り・流通記者、「WWD ジャパン」の編集記者、デスク、シニアエディターとして、25年以上にわたり、ファッション企業の経営や戦略、マーケティングなどを取材・執筆。
- 「ザラ」「H&M」「ユニクロ」などのグローバル SPA 企業や、アパレル、セレクトショップ、百貨店やファッションビル、ショッピングセンターなどのデベロッパーなどを主に担当。
- 外資系ブランドの経営者インタビューも手がけた。
- TGC の愛称で知られる「東京ガールズコレクション」の NHK 特別番組では解説として出演。
- 2017 年に独立。執筆活動と並行して、企業向けにサステナビリティや教育、メディア戦略などのアドバイスや、セミナーのファシリテーターなどを行う。
- 著書に「ユニクロ進化論」（ビジネス社）。



松島 倫明（まつしま みちあき）

『WIRED』日本版 編集長

- 未来を実装するメディア『WIRED』の日本版編集長として WIRED.jp／WIRED の実験区“SZ メンバーシップ”／雑誌（最新号 VOL. 42 特集「NEW COMMONS」）／WIRED カンファレンス／Sci-Fi プロトタイピング研究所／WIRED 特区などを手がける。
- NHK 出版学芸図書編集部編集長を経て 2018 年より現職。
- 内閣府ムーンショットアンバサダー。
- 訳書に『ノヴァセン』（ジェームズ・ラヴロック）がある。



東京出身、鎌倉在住。

向 千鶴（むこう ちづる）

WWDJAPAN 編集統括兼サステナビリティ・ディレクター

「毎日ファッション大賞」選考委員

「インターナショナル・ウールマーク・プライズ 2020」のアドバイザリー・カウンシル

消費者庁サステナブルファッション・サポーター



- エドウィン、日本繊維新聞社記者を経て 2000 年に INFAS パブリケーションズ入社。「ファッションニュース」編集長、「WWD ジャパン」編集長などを経て 21 年 4 月から現職。
- 記者として主にデザイナーズブランドの取材を担当。
- クリエイションとビジネスの両輪について考察する取材を得意とし、これまでに約 3000 のファッションショーを取材してきた。
- 業界が大きな岐路に立っている今、ファッションとそれを取り巻く人が輝くには、ビジネスのサステナビリティ・シフトが欠かせないと考え、今年から現職で活動中。メディア制作のほか、サステナビリティに関するワークショップやセミナー、イベントを多く実施中。
- 【お知らせ】11 月 24 日（水）18：00～は水野大二郎座長もお招きしオンラインイベント「WWDJAPAN サステナビリティ・サミット 2021」を開催します。キーワードはマッシュルームレザー、ヴァーチャルファッション、循環型。ぜひご覧ください！ <https://www.wwdjapan.com/s/1279297>

横浜市出身。東京女子大学卒業

村木 剛 (むらき つよし)

株式会社ヨウジヤマモト
常務執行役員
マーケティング、グローバル
オムニチャネル推進



- ヨウジヤマモト社にて事業再生、事業再成長に従事。
- 新規事業、ジェンダーレス、オンライン専用新規ブランド等立上げ、マーケティング、ライセンス・コラボレーションの責任者として、経営全般に従事。
- 1999 年/ 株式会社ヨウジヤマモト入社
- 2009 年/ 同社 執行役員 経営企画 兼 営業本部長
- 2011 年/ 同社 執行役員 社長室 経営企画統括 管理本部長

駒澤大学法学部卒業
丸の内西岡アカデミー修了
ハーバードビジネススクール AMP 修了

森田 修史（もりた のぶふみ）

デジタルファッション株式会社

代表取締役社長

クチュールデジタル株式会社

代表取締役 CEO

COUTURE DIGITALE HONG KONG CEO

一般社団法人デジタルファッションクリ

エイター協会 代表理事

Solve 株式会社 取締役

A-NUDE 株式会社 代表取締役社長

関西学院大学 客員教授

国際標準化機構（ISO）TC133 日本代表エキスパート

一般社団法人 OSAKA あかるクラブ 専務理事

一般社団法人京黒染で繊維を再生する協会 理事



- 2001 年に東洋紡が初めて作ったベンチャー会社、デジタルファッション株式会社（現在クチュールデジタル 100%子会社）の設立メンバー。
- 企業・公共機関等とのビジネス推進及び学会・学校等での講演を多数実施。
- 直近では超リアルな 3DCG 衣服とそれを実際に生産するオンデマンドのプラットフォーム化を実現。
- 大阪・関西万博開催に向けて TEAM EXPO に「ネオジャポニズム／『Green x Digital x Fashion』で参画。良き伝統のアナログと最新デジタルでの利便性でクリエイションの民主化を目指す。
- 日本発信の文化広げて、「多品種小ロット大量生産のデファクトスタンダード」を目指し、環境を考慮したものづくりへと新たなファッションモードの世界を構築中。

森永 邦彦（もりなが くにひこ）

株式会社アンリアレイジ
代表取締役社長/デザイナー



- 1980 年、東京都国立市生まれ。早稲田大学社会科学部卒業。大学在学中にバンタンデザイン研究所に通い服づくりをはじめ。
- 2003 年「アンリアレイジ」として活動を開始。ANREALAGE とは、A REAL-日常、UN REAL-非日常、AGE-時代、を意味する。2005 年東京タワーを会場に東京コレクションデビュー、同年ニューヨークの新人デザイナーコンテスト「GEN ART 2005」でアバンギャルド大賞を受賞。東京コレクションで 10 年活動を続け、2014 年よりパリコレクションへ進出。
- 2015 年フランスの「ANDAM FASHION AWARD」のファイナリストに選出される。
- 2017 年パリコレ以降の作品を展示した「A LIGHT UN LIGHT」展を国内で開催し、LA 及びサンパウロの JAPAN HOUSE にて巡回展を開催、また、ポンピドゥー・センター・メッセやロスチャイルド館、森美術館での展覧会へも参加している。
- 2019 年フランスの「LVMH PRIZE」のファイナリストに選出。
- 2019 年度第 37 回毎日ファッション大賞受賞。
- 2020 年 伊・FENDI との協業をミラノコレクションにて発表。
- 2021 年ドバイ万博日本館の公式ユニフォームを担当。細田守監督作品『竜とそばかすの姫』では主人公ベルの衣装を手がける。

渡邊 真之助（わたなべ しんのすけ）

株式会社 海外需要開拓支援機構

(Cool Japan Fund)

投資戦略グループ シニアディレクター



- 新卒でデロイト トーマツ コンサルティングに入社。
- アパレルやテクノロジー・メディア・通信業界の海外事業戦略立案、クロスボーダーM&A 支援、業務改善案件等に従事。
- その後 MBA 留学を経て、2014 年 2 月に経産省傘下のファンド Cool Japan Fund に入社。
- 同社では、ファッション・ライフスタイル、メディア・コンテンツ領域を主に担当し、スタートアップ投資チームも牽引。シタテル、45R-J、MCIP、Clozette では社外取締役を務める
- Cool Japan Fund での主な投資先 シタテル、IMCF、45R-J、バルクオム、ワンダープラネット（上場済）、MCIP（吉本興業等との海外事業用合弁会社）Clozette（シンガポールの KOL / デジタルマーケティング企業）、DVC（ミャンマーの TV 局運営企業）

文化服装学院 Apparel Merchandising 科卒

Indiana University Bloomington、

Kelley School of Business, Accounting Major | 学士

SDA Bocconi School of Management | MBA